

シラチャ校だより

泰日協会学校
シラチャ校
2017. 10. 31



「からをやぶれ Break the Shell」

泰日協会学校シラチャ校 校長 久光靖男

校庭に青いテントが並んでから程なく、タイの気象庁が乾期にはいったということを告げたというお話が聞かれるようになりました。いよいよ運動会の季節です。まだ時々雨雲が心配になりますが、それでも校庭には、響き渡る子供たちの元気な声でいっぱいです。

さて運動会のテーマが「からをやぶれ Break the Shell～一致団結し、つなげ 446 人の熱き魂～」になりました。各自がめあてをもって取り組み自分の殻を破り、熱き心で一緒に盛り上げていこうという、2年ぶりの本格的な運動会への意気込みが伝わってくるものです。

この「からをやぶる」について少し考えてみました。私たちは普段、自分の殻がどんな殻なのか自分ではなかなか気がつかないと思います。運動会についてだけで考えると「走るのが苦手だなあ」、「ダンスをするのははずかしいなあ」「一生懸命走って負けたらいやだなあ」「応援されると緊張してしまうなあ」などいろいろな思いがあります。それぞれの学級での話を聞くと、こういったことを取り上げ、自分がこれまで気がつかなかった事も含めて考えることから始めていました。自分を見つめる中で見えてきたものを、目標として言葉にしてきたようです。自分のめあてを意識できれば、覚悟ができ、道が見えてきます。でも破るのはなかなか大変です。松下幸之助さんの言葉の中に右のような言葉があります。熱い気持ちを持ち続け、粘り強く取り組んでほしいと思います。

また一人で考え、できないことも、一緒だとできたりするということもあります。「啐啄同時^{そつたくどうじ}」(雛が弱いくちばしで殻をつつくと同時に親鳥が殻をわる)になっていくよう大人もしっかり見守っていききたいものです。12日の運動会まであと2週間、1日1日の取り組みに期待したいと思います。

考えてみること

工夫してみること

そしてやってみること

失敗したらやり直せばいい

やり直してだめなら

もう一度工夫し

もう一度やり直せばいい

どんな小さなことでもいい

どんなわずかなことでもいい

昨日と同じ今日は繰り返すまい



10月25日、全校集会でディレクターより前国王様の功績やタイ国民の思いをお話いただきました。タイの国民にとって偉大な功績を残された前国王様への信頼の気持ちは、言葉に言い尽くせないものだとことを肌で感じました。全校で作成した黄色い花の飾りは、慰霊の周りを彩り、シラチャ校のみんなの気持ちを表したものになりました。プミポン前国王様のご冥福を心よりお祈りいたします。

読書の秋(?) に寄せて

四月に来タイして以来、真夏の太陽の日差しと、時折訪れるすさまじい雨にいまだに慣れずにいますが、影の長さや日の入りの時間の变化に気づいたとき、季節は変化しているのだと感じます。日本では、もうだいぶ涼しくなった頃でしょう。「読書の秋」と言われる季節ですね。

皆さんは、読書は好きでしょうか？よく読むという方も、時間がなくてなかなか読めないという方もいらっしゃると思います。「読書が好きですか？」と聞いたら、迷いなく手を挙げてくれる子はクラスにどれくらいいるでしょう？多くのメディアが身の回りにあふれている現代、読書は趣味としても、情報を手に入れる手段としても、最も身近なものではなくなってしまったのかもしれませんが。

しかし、知識を蓄え、論理的思考力を高め、情操を豊かにし、想像力を広げるために、読書が非常に有効であることは今も昔も変わりません。子供たちにはぜひ、本をたくさん読んでもらいたいと思います。

では、子供が読書を楽しむようになるためには、どうすればいいのでしょうか？好きなジャンルの本を探したり、読み聞かせをしたりと、方法はたくさんあると思いますが、私は「読後」を大切にしておけることも、よい方法の一つであると考えます。

楽しい旅行に行ったあと、すばらしい映画を見たあと、人は、その感動を誰かに伝えたいなるものです。それは、読書でも同じこと。本を読んだ後、お家の方が「その本、面白かった？どんなお話なの？」と聞いてくれれば、きっと子供は自分の読んだ本の内容を思い出して、再構成し、要約して、ストーリーを語ってくれるでしょう。適切な語彙を探し、根拠を明確

にして、感想を語ってくれるでしょう。その結果、お家の方の心からの理解や共感が得られれば、子供の「読後」は充実し、次の読書を後押ししてくれるのではないのでしょうか。

「読書が大好きです！」と胸を張って言ってくれる子が、少しでも増えてくれることを願っています。

(文責：新子慶行)



日本にもある？タイの音楽「ロイクラトン」

今年もロイクラトンの時期がやってきましたね。ロイクラトンというのは、クラトン（灯籠）を川に流すことで、水の女神に感謝を捧げるというタイの昔ながらの風習のことを指すそうです。

さて、このロイクラトンに合わせて「ロイクラトン」というタイの音楽と一緒に流れていることをご存知でしょうか。タイの方は、この曲に合わせて一緒に歌を歌ったり、シラチャ祭で四年生が発表してくれたアンガルンを使って演奏したりと、国中で大変親しまれている曲です。しかしこの曲、どこか懐かしい、どこかで聞いた気がするような曲なのです。それはどうしてでしょうか。

実は、この曲はタイでよく使われているドレミソラという五つの音の組み合わせだけを使って演奏されています。そして日本にも、この五つの音の組み合わせで演奏されている音楽があります。それは、「君が代」。荘厳な雰囲気を持つ日本の国歌と、ロイクラトンは一見全く違うように聞こえますが、よく聞いてみると共通しているところが見つかるはずです。ぜひロイクラトンをきっかけに、タイの心安らぐ音楽に耳を傾けてみてください。

（文責：高野 綾夏）

学校生活を支えてくれる人々

「自分たちの学校生活を支えてくれる人」と言われると、皆さんはどのような人が頭の中に浮かんできますか。家族、友達、先生、……色々な人が浮かんでくると思います。実は、今浮かんだ人だけでなくもっともっとたくさんの人が私たちの学校生活を支えてくれています。

例えば朝登校する時、多くの方がモントリーのバスに乗って学校にやって来ます。ドライバーさんはみんなが無事に登校できるよう安全運転をしてくれたり、モニターさんが降りるときに荷物を渡してくれたりします。雨が降った時には、みんなが濡れないように傘をさしてくれれます。

休み時間にみんなが元気よく遊んでいる校庭や中庭、北庭は、大きな枝や葉っぱなど、みんなが怪我をしったり滑ったりしないよう、用務員さんが危ない物を拾ってくれています。他にも、暑い中芝生を刈ってくれたり、廊下やトイレをピカピカに掃除をしてくれたりするなど、みんなが過ごしやすい環境を作ってくれています。

また、ここは外国ということもあり、銃をもった不審者など日本では考えられないような危険に巻き込まれる可能性もあります。みんなの安全を守るため、警備員さんはいつもグラウンドや校舎の見回りをしてくれています。

みんなが気持ちよく学校で過ごすことができているのは、実はたくさんの人の支えがあるからです。しかし、普段はそれが当たり前のように感じているかもしれません。1月23日は勤労感謝の日です。シラチャ校では11月30日に勤労感謝集会を行いタイ人のスタッフさんたちに感謝の気持ちを伝えます。この機会に、日頃なかなか伝えられない感謝の気持ちを表してみるのはいかがでしょうか。

（文責：渡邊 眞子）